

言葉

堂

楽所

局

(第3種郵便物認可)

手話カフェ 広がる交流

聴覚障害者と健常者がお茶を飲みながら手話で交流を深める「手話カフェ」(神戸市灘区篠原南町6)が、2006年8月のオープンから6年を迎えた。聴覚障害への理解を広げるだけでなく、手話を学ぶ人たちの学習の場としても利用が進んでおり、運営団体の「ひょうご聴障ネット」は「今後も、人々が楽しく集える場所として続けていきたい」としている。

(浅野友美)

同ネットは06年1月、聴覚障害支援に関わる医療関係者や自治体職員らが設立。手話カフェは、聴覚障害者と健常者が日常生活で接点を持つ機会を増やすと、元々あった喫茶店の協力を得て、店の定休日である第3水曜日を開くことにした。

店員は、同ネットの会員らがボランティアで務め、注文のやりとりなどはすべて手話で行う。最近では毎回、30〜70歳代を中心に計50〜60人が利用し、大阪から訪れる人もいる。客が多い時は、障害者と健常者が相席になることもあるが、手話を通じてすぐに打ち解けるといふ。

聴覚障害を持つ三木市の70歳

灘で6年 月1回 学びの場にも



手話を通じたコミュニケーションを楽しむ女性たち(神戸市灘区で)

代男性は、4月に初めて来店。最初は周囲が健常者ばかりで戸惑ったが、手話で話すうちに意気投合。「ここでは知らない人とも心が通じ合うので居心地がいい。こういう場がもっと広まってほしい」と話す。

一方、手話の勉強を始めて3年目の宝塚市の主婦西川陽子さん(62)は「手話サークルでは、間違っていないかと緊張する

が、ここでは分からないことを気兼ねなく、何度も聞ける。今後も通い続けたい」と笑顔を見せる。

オープン当時から店員を務める同ネットの荒木令子さん(62)は「誰でも足を運びやすい喫茶店にするのが目標。手話を通じた交流を楽しみつつ、『聞こえない世界』で困っている人の実情について少しでも知ってほしい」と話す。

営業時間は午前11時半〜午後8時。メニューは、コーヒー・紅茶(300円)、カレー(500円)などで、利益は、県内の聴覚障害者施設に寄付される。

問い合わせは同ネット(078・3662・5255)。